

## 社長年頭挨拶 (2012/01/04)



皆さん、新年明けましておめでとうございます。  
昨年暮から正月にかけての6日間のお休みで、  
皆さんは十分に休養され、リフレッシュされ、  
気分も新たに、明るく元気に新年を迎えられたことと  
思います。

今年1年間が、皆さんにとって、またわが社にとって、  
充実した年となることを、先ずは心から祈念致します。

さて、2012年、今年は一体どんな1年になるのでしょうか？

良きにつけ、悪しきにつけ、2011年は予告編の1年であったと思います。

順不同ですが、思いつくまま例を挙げてみますと、

東日本大震災、オサマ・ビン・ラディン殺害、米国によるイラク戦争終結宣言、チュニジア、シリア、エジプト、リビア等々「アラブの春」、米国とかなりの距離があった軍事政権下のミャンマーに、ヒラリークリントン国務長官が姿を現わすという電撃訪問、そして、アウン・サン・スーチーさんと公の場で抱擁、中国に対する牽制を世界中に見せしめた、南ア・ダーバンで開催されたCOP17(第17回国連気候変動枠組み条約締結国会議)では、わが国、日本が遂に京都議定書から離脱、新しい枠組みにも参加しないとした。(米国、中国、インド等、主要国が参加しない限り、日本もしない！という初めてのまともな主張!!)

そして、12月後半になり、世界中の注目の的となった、North Koreaのトップの突然の死亡と...  
枚挙にいとまがありません。

今年2012年は、世界の主要国のトップが交代します。ロシア、North Korea、フランス、台湾、メキシコ、アラブの春の中東諸国、中国、韓国、そして米国...等々大きく世界が動きます。

一方のわが国、何も決められない政治。年金問題、消費税問題、エネルギー政策や安全保障の課題、財政の建直し、全て先送り、先送り。復興どころか、復旧さえ遅々として進まぬまま、既に10ヶ月近くが経過してしまった東日本大震災、福島原発の気の遠くなるような廃炉への道のり、これらの山積みされた課題・難題の本番が今年から始まる！ということです。

福島第一原子力発電所の事故を除いても、東日本大震災がもたらした被害・損害は16兆円から25兆円といわれています。これから5年~10年、いや25年~50年かけて、わが国は、皆でそのコストを背負って復興に取り組まなければなりません。

この様に、混迷が、或いは不確実性が高まる時代にあって、私達は今後想定外の事態に遭遇しても、慌てることのないように、社会の変化が我々の生活や仕事に及ぼす影響を、普段から予測して、準備を整えていく習慣を身につけていくことが、とても重要になると思います。

わが社も、次の50周年に向けて、今年からまた新たな展開に取り組んで行きたいと思えます。今の段階で考えていることをお話しします。

まず、わが社の成長戦略の一環に関わることです。

わが社のホームグラウンドは日本国内市場であります。しかし、といつても、日本国内だけを見ていても具体的な成長戦略は見えて来ない、ということ、私は機会あるごとに皆さんにお話してきているつもりです。わが社の取引先のグローバル化を常に意識し、その動きに促して行く、場合によっては、その先手を打って行くことが、今後益々重要になってくると思えます。その為にも、わが社自身もグローバル化に対応出来る人材を育成して行くことが急務であります。

昨年、貿易事業部は、三菱商事のアジアの海外場所7カ国（香港、インド、インドネシア、シンガポール、タイ、ベトナム、フィリピン）とオーストラリア、ドイツ、合計9カ国から11名のナショナルスタッフに集まって貰い、初めて、わが社が主体となった紙系の製品の販売会議を開催しました。月曜日から金曜日までの僅か5日間のプログラムでしたが、わが社の社員と彼らとの距離感が、グッと近くなったことは、お互いにとってとても大きなメリットだったと思えます。皆さんが、コミュニケーション出来る仲間が、海の向こうにいることは、今後わが社の取引先の海外展開が進む中で、連携して新たなビジネスチャンスに取り組む上で、大変大きな武器になります。貿易事業部にとどまらず、全営業部隊が、積極的に参画する会議へと発展させ、定例会となるよう、今年も是非開催出来るように推進して貰いたいと思えます。

人材育成という面では、また、今年は更に一歩進めて、わが社の若手社員を海外駐在員として派遣することの具体化を図りたいと思っています。

また、これからのわが社の更なる成長には、とりわけ女性陣の活躍は欠かせません。

これからは営業の前線での活躍も期待します。そこには今までに経験したことのない、解決しなければならない困難な課題が横たわっているかもしれませんが、役職員一丸となって力を合わせてチャレンジして貰いたいと思えます。

次に、経営幹部の皆さん、とりわけ役員の皆さんに申し上げたいことがあります。

役員ひとり一人の重要なミッションのひとつは、「改革」であります。本気で自ら「改革」に汗を流さない役員は、その資格がないと言っても過言ではありません。

成長が大きくは期待出来ないと言われている日本国内の市場環境にあつて、わが社が持続的に成長して行くには、今あるビジネスモデルなり、仕事の進め方を壊し、全く発想を変えて、一新すると言う強い気持ちと覚悟が必要です。皆さんの「改革」行動を期待します。

毎年申し上げることですが、今年も法令遵守、倫理・道徳に適うことをもって良しとするコンプライアンス、そして、三菱商事グループ企業の一員としての品位・品格のあるレピュテーション、プライドを持って、全員で一丸となって、この難しい時期を乗り越えて行きたいと思えます。

世界の先進国の中で、いまだどの国も経験したことの無いスピードで、高齢化・少子化時代に突入して行くこの日本という国ですが...

私は、この国の将来に対して、楽観的であります。

世界中のいたる処で、争い事や、自然破壊が起こっています。しかもその解決策はいたずらに複雑で、まさに混沌としたままです。

東日本大震災で、世界中の人々の目を見晴らせた、日本人の不屈の精神と、優しさ忍耐強さと思いやりの深さ！ 人間の営みの最も大切なもの！ 社会のあり方や物の考え方という面で、日本人がこれからは世界のリーダーになりうると思います。

そういう意味で、私は楽観的であります。

今年もまた一年、忙しくなりそうですが、「よく学びよく遊べ」、

そして、私の思いのひとつでもあります、「急がば回れ」の精神で「意地」と「覚悟」をもって、一緒になって頑張っていきましょう。

以上をもって、私の年頭に当っての挨拶とします。



以上